

烏帽子会会報

2021年春号 Vol.70



白衣授与Student Doctor認定式 集合写真

■ 福岡大学医学部同窓会烏帽子会總會について	3 P
■ 会 長 挨 拶	3 P
■ 福岡大学医学部開設50周年ご挨拶	4 P
■ 教授 就 任 挨 拶	5 P
■ 教授 退 任 挨 拶	9 P
■ 学 会 報 告	11 P
■ 教 室 紹 介	16 P
■ 支 部 長 挨 拶	18 P
■ 学生会員支援報告	25 P

福岡大学医学部同窓会

目 次

・ 総会案内				
福岡大学医学部同窓会烏帽子会総会について			3
・ 会長挨拶				
新設卒業	高 木 忠 博		3
・ 福岡大学医学部開設 50 周年 ご挨拶				
ご挨拶	林 英 之		4
・ 教授就任挨拶				
教授就任のご挨拶	永 光 信一郎		5
教授就任のご挨拶	小 川 正 浩		6
教授就任のご挨拶	佐 藤 寿 彦		7
教授就任のご挨拶	山 下 眞 一		8
・ 教授退任挨拶				
教授退任のご挨拶	竹 下 盛 重		9
・ 学会報告				
第 18 回日本機能性食品医用学会総会 一開催報告	三 浦 伸一郎		11
第 56 回日本胆道学会学術集会開催報告	植 木 敏 晴		12
・ 報 告				
福岡大学医学部医学科卒業生の初期臨床研修病院選択に関するアンケート結果	北 鍋 島 研 樹		13
・ 教室紹介				
消化器外科学講座	塩 吉 飽 洋 生 吾		16
放射線医学講座 「Dr's Dr」と称される放射線科医			17
・ 支部長挨拶				
まかせん会（烏帽子会福岡支部）挨拶	権 藤 公 和		18
烏帽子会誌第 70 号によせて（熊本支部長）	魚 返 英 寛		18
福岡大学烏帽子会、北九州支部だより	坂 本 博 士		19
筑紫支部長挨拶	竹 野 文 洋		19
朝倉支部長挨拶	杉 山 正 治		20
宮崎県支部長挨拶	野 田 寛		20
広島支部の現状	菅 田 耕 一		21
沖縄県支部長挨拶	野 原 薫		21
目指せ！関西支部病院	渡 邊 太 郎		22
飯塚支部長挨拶	江 本 純		22
筑後支部長挨拶	宿 里 芳 孝		23
おそらく最も若い支部長挨拶（佐賀支部長）	木 下 竜太郎		23
支部長デビュー未だならず（大分県支部長）	矢 田 公 裕		24
鹿児島支部長挨拶	橋 口 恭 博		24
・ 学生会員支援報告				
2020 年度 白衣授与式	安 元 佐 和		25
卒業式			27
・ 医局長・医長名簿			28
・ 教育職員人事			29
・ 事務局より			裏表紙
・ 編集後記			裏表紙

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai
パスワード : fukudai1 (数字)



ホームページ用二次元
バーコード

福岡大学医学部同窓会烏帽子会総会について

令和3年7月3日に開催予定にしております『福岡大学医学部同窓会 烏帽子会総会・講演会・懇親会』につきましては開催場所、開催方法を検討中です。

決定次第ホームページでお知らせいたします。

会長挨拶

新設卒業

烏帽子会 会長 高木 忠博 (1回生 脳神経外科クリニック高木 院長)



1972年、我母校は、福岡大学の「新設医学部」として産声を上げました。全くの無からの出発でした。6年後卒業生が出ましたが、医学部の「臨床」と「教育」と「研究」は創設期には九大から来られた先生方にご依頼して歴史を積み重ねて来ました。

そして、平成11年10月に林君が眼科の教授になり初めての卒業生教授が誕生しました。その翌年平成12年4月に朔君が内科学第二の卒業生初の主任教授になり、平成25年12月には卒業生初の医学部長に就任し3期務めました。その間、平

成31年までに17名(主任教授12名)の福岡大学医学部教授、6名の筑紫病院教授が生まれました。そして遂に医学部長から令和元年12月1日福岡大学長へ推薦されました。この令和元年は、小玉医学部長、岩崎病院長、柴田筑紫病院長、三浦西新病院長と医学部の運営上の要職を全て卒業生が担当する事になり大変記念すべき年になったと思います。それは、今まで「新設医大」という言葉の中になんとなく未熟、未発達という含みが同封されているように感じていたものを完全に払拭したと思います。自らの力で着実に独立独歩の成長を続けている先輩大学と同じ土俵へ一番乗りした新設大学が、Fukuoka University school of medicine と思っています。

これからが、大学発展の為の「本当の正念場」が始まるように思います。今までの様に、皆で一致団結して、母校の発展の為に協力して行きましょう。

福岡大学医学部開設 50 周年 ご挨拶

ご挨拶

福岡大学医学部同窓会烏帽子会副会長・大学評議員 林 英之 (1 回生)



本年(2021年)は、福岡大学医学部開設50周年となります。この良き年を迎えられる幸運を皆様と喜びたく存じます。また昨年12月24日に開催されました福岡大学評議員会ならびに理事会におきまして、福岡大学病院本館の移転新築が最終承認されました。これにより、病院新館と隣接する位置に新・新館(仮称)が建設され、これをもちまして医学部病院で働く人々の悲願でした福大病院の新築計画が50年を経て完遂する運びとなりました。竣工は2025年を予定されています。

さらに、一昨年の朔啓二郎学長(1回生)誕生に続き、小玉正太医学部長(13回生)、岩崎昭憲病院長(5回生)、柴田陽三福岡大学筑紫病院長(4回生)、三浦伸一郎福岡大学西新病院長(11回生)と主要な役職に同窓生が就任いたしました。

最後に、多くの報道でご存知と思いますが、福岡大学病院ならびに福岡大学筑紫病院は地域の主管病院として新型コロナウイルス対応に邁進し、地域から多くの賞賛をあつめ、特に福岡大学病院 ECMO センターは九州一円の指導的施設として広く知られるに至っています。開設50周年に平仄を合わせるように、施設、人事、外部からの評価が医学部・病院並びに同窓に、よりよい形で変わっていくさまを見ることは、不思議でもあり、また同窓の一員としての責任を改めて感じます。すなわち、福岡大学医学部・病院は半世紀を過ぎて、新たな時代に入りつつあるものならば、今後の半世紀の、まだ見ぬ後輩達に何を残せるのか考えざるを得ません。

教授就任挨拶

教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 小児科学 主任教授 永 光 信一郎 (13 回生)

永 光 信一郎
主任教授 略歴

昭和 59 年 3 月

修道高校 (広島県) 卒業

昭和 59 年 4 月

福岡大学医学部医学科 入学

平成 2 年 3 月

福岡大学医学部医学科 卒業

平成 2 年 4 月

久留米大学大学院医学研究科
内科系博士課程 入学

久留米大学小児科 入局

平成 6 年 3 月

久留米大学大学院医学研究科
内科系博士課程 修了

平成 10 年 11 月～平成 14 年 3 月

Baylor College of Medicine
postdoctoral fellow

平成 14 年 6 月

久留米大学小児科学講座 助手

平成 19 年 4 月

久留米大学小児科学講座 助教

平成 19 年 10 月

久留米大学小児科学講座 講師

平成 25 年 12 月

久留米大学小児科学講座 准教授

令和 3 年 4 月

福岡大学小児科学講座 主任教授

この度、令和 3 年 4 月 1 日付けで、広瀬伸一先生の後任として、福岡大学医学部小児科学講座の主任教授を拝命いたしました、永光信一郎と申します。烏帽子会会員の皆様にご挨拶を申し上げます。平成 2 年に福岡大学医学部を卒業し、久留米大学医学部小児科に入局し主に小児神経学と小児心身医学の診療と研究に従事してきました。母校にて次世代育成に携われることに感謝を申し上げますとともに、諸先輩方が築かれて来られた福岡大学小児科の伝統を継承し、さらなる臨床・研究・教育の充実を図っていく所存でございます。

今般の小児医療は少子化および予防接種普及による小児感染性疾患の激減により、小児医療提供体制の変革が求められていた中、世界的パンデミックとなった COVID-19 の影響にて小児医療の在り方はさらなるパラダイムシフトを求められています。子どもを biopsychosocial な存在として捉え、個々のヘルスプロモーションを推進させ、健康寿命の延伸を子ども時代より取り組み、支援をしていくことが小児科医に求められています。2018 年に成立した成育基本法は妊娠期から成人期まで成育過程にある者に切れ目なく成育医療を提供していくことを理念として掲げている一方、日本専門医機構は今後の少子高齢化を考慮してシーリングを課し、小児科医数の大幅な削減を検討しています。社会の医療的ニーズが変化している中、子ども数だけで新生児科医・小児科医の数が算出できるものではないことを、行政にもしっかりと申し上げていきたいと思っております。

私事ですが、令和 2 年 9 月より日本小児科学会の分科会である日本小児心身医学会の理事長を拝命しております。子どもの心の診療のネットワーク事業を展開して参ります。また令和 3 年 4 月より厚生労働省科学研究費補助金成育疾患等克服事業研究班の班長も仰せつかりました。成育基本法の理念に基づいた乳幼児健診の充実と、新たな学童・思春期健診の開発を実施してまいります。多くの関係者の方々のお力添えを頂きながら、この福岡から小児医療のパラダイムシフトを行っていただければ幸甚です。

教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 臨床検査医学講座 主任教授 小川正浩 (14 回生)



小川正浩
主任教授 略歴

1991年3月
福岡大学医学部医学科卒業
1991年6月
福岡大学病院 臨床研修医
(内科第二)
1993年6月
福岡大学病院 医員 (内科第二)
1995年4月
唐津赤十字病院 医師 (内科)
1996年4月
福岡大学病院 医員 (内科第二)
1996年5月
国立循環器病センター 専門修練医
(心臓血管内科)
1998年4月
福岡大学病院 医員
(循環器科・救急救命センター)
2000年4月
北九州市立門司病院 部長 (内科)
2003年4月
福岡大学病院 助手 (循環器科)
2003年10月
福岡大学病院 講師 (循環器科)
2005年4月
シーダス・サイナイ医療センター
研究員 (心臓電気生理学)
2007年6月
インディアナ大学医学部 研究員
(心臓電気生理学)
2008年4月
福岡大学病院 講師 (循環器内科)
2010年4月
福岡大学病院 准教授 (循環器内科)
2017年4月
福岡大学病院 准教授
(臨床検査部兼務)
2018年4月
福岡大学病院 診療教授
(循環器内科)
2021年4月
福岡大学医学部臨床検査医学講座
主任教授

2021年4月1日より、松永彰教授の後任として福岡大学医学部臨床検査医学講座主任教授および福岡大学病院臨床検査部診療部長に就任いたしました。

私は、1991年福岡大学医学部を卒業後、福岡大学内科第二講座に入局し、荒川規矩男教授、朔啓二郎教授（現福岡大学学長）、そして三浦伸一郎教授の御指導の下、循環器診療、ことに不整脈診療を中心に臨床・教育・研究に従事してまいりました。その間、多くの素晴らしい指導者である先輩、また同輩や後輩の先生方との出会いに恵まれ、助けられ、今でも大きな財産となっています。また、国立循環器病センター、シーダス・サイナイ医療センターやインディアナ大学など内外の施設での研鑽から、私にとって新たな知識や経験のみならず、価値観の大きな広がりを得ることができたと思います。これまで心臓・血管内科講座でのみ仕事を続けてまいりましたが、この度、縁あって臨床検査医学講座に異動し、主宰させて頂くことになりました。

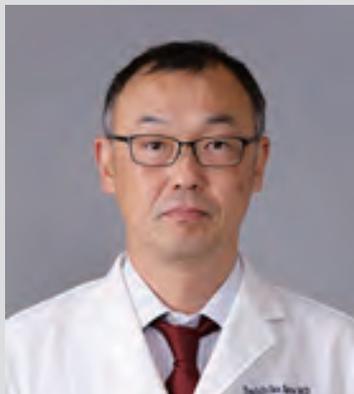
福岡大学病院臨床検査部は、臨床化学・遺伝子検査室、血液・染色体・一般検査室、細菌検査室、生理機能検査室、緊急・輸血検査室、中央採血室、検査相談室、事務部門に分かれ、医師、臨床検査技師、看護師、事務職員など約70名の職員で構成し運営している組織です。中央検査部門としてほとんどすべての診療科と関わり、それぞれの診療科の診断や治療に貢献する重要な役割があります。直近ではコロナ禍でのPCR検査など病院のみならず社会的にも大きな役割を果たしています。

臨床検査学の世界も刻々と変化し、新しい検査様式やデジタル化・人工知能に対応した進化を続けていく必要があります。今後は、専門としている循環器など生理検査部門の発展をはかるとともに、検体検査部門においては、新たなものに柔軟に、正確かつ迅速に対応していく所存です。

総じて、今まで研鑽してまいりました循環器・不整脈学の診療・教育・研究の継続はもとより、臨床検査部の管理運営主体として、時代や社会の変化に対応できるコロナ後時代の新たな「RINKEN」を構築すべく精進していきたいと考えています。今後とも宜しくお願い申し上げます。

教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 主任教授 佐藤 寿彦 (特別会員)



佐藤 寿彦
教授 略歴

- 平成 9年3月
京都大学医学部医学科 卒業
- 平成 9年5月 1日～
京都大学胸部疾患研究所 医員
- 平成 13年9月 1日～
京都桂病院呼吸器センター 医員
- 平成 13年7月 1日～
国立療養所岐阜病院外科 医員
- 平成 16年4月 1日～
兵庫医科大学呼吸器外科 助手
- 平成 21年4月 1日～
京都大学医学部附属病院
呼吸器外科 助教
- 平成 26年8月 1日～
京都大学医学部附属病院
臨床研究総合センター 開発企画部
准教授
- 令和 元年5月 1日～
福岡大学医学部呼吸器・
乳腺内分泌・小児外科学 准教授
- 令和 3年4月 1日～
福岡大学医学部呼吸器・
乳腺内分泌・小児外科学 教授

この度令和3年4月1日付けで福岡大学医学部呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学講座の主任教授ならびに診療部長を拝命いたしました佐藤寿彦でございます。

永年職務を尽くされ、日本の呼吸器外科学で指導的なお立場を築いてこられました岩崎昭憲教授の後任としての重責を今この原稿を書きながら感じております。小生は平成9年に京都大学胸部疾患研究所附属病院外科に入局、その後京都桂病院・国立療養所岐阜病院・兵庫医科大学胸部外科と卒後修練を重ねた後、京都大学再生医科学研究所で学位を取得。平成21年から京都大学呼吸器外科教室に採用後は臨床・研究・教育に従事して気がつく10年が経ち、その後令和元年に福岡大学の皆様に准教授として迎えていただきました。低侵襲肺癌手術単孔式胸腔鏡手術の導入、各種セミナーやハンズオンの開催ほか、またロボット手術センター長として九州地方初の見学者受入れ可能なダビンチメンター施設の登録を実現し、低侵襲手術で有名である福岡大学呼吸器外科のプレゼンスを保つよう努力してまいりました。また進化し続けるがん治療ですが、烏帽子会会員の皆様に是非ご紹介したいのは、今福岡大学では微小肺癌の診断・治療を1日で低侵襲にすまることが可能なことです。2020年12月から岩崎院長の肝煎で設置されたハイブリッド手術室を駆使し、文字通り最先端の治療を実現するべく努力しています。福岡大学がんセンターも2021年春より発足、地域医療の中で私たちが果たす役割を自覚しながら診療にあたっています。昨年には私の肺癌手術を「めんたいワイド」でとりあげていただいたのですが、九州一円だけでなくアジア太平洋からも患者様に来ていただくために他の医療機関にはない福岡大学らしいといわれるカラーを打ち出してゆこうと考えています。そのために烏帽子会の皆様のご協力・何卒ご支援を、またこれまで福岡・九州に全く縁のなかった私ですが、あわせてご教示ご鞭撻いただけますようよろしくお願い申し上げます。じつは小生鮎とり（友釣り・投網・刺網）が趣味でして、京都在住時は漁協に属して鴨川・京都北部の清流・琵琶湖近辺や長良川の上流域へ出かけていました。九州では球磨川や筑後川の鮎に思いをめぐらせ、昨夏室見川の河川敷をあるいていて群れる鮎をみつけたときは胸が躍りましたが教授になってしばらくはとても出かける余裕などないなと諦めています。

教授就任のご挨拶

福岡大学筑紫病院 呼吸器・乳腺外科 教授 山下 眞 一 (特別会員)



山下 眞 一
教授 略歴

- 1978年 長崎県立長崎東高卒
- 1986年 熊本大学医学部卒
- 1986年 熊本大学第二外科入局
研修医
- 1988年 国立療養所松戸病院
呼吸器外科
- 1994年 熊本大学大学院修了
医学博士
- 1994年 スイス・ジュネーブ大学
免疫病理学留学
- 1996年 天草中央総合病院外科
医長
- 2004年 国立病院機構熊本医療
センター外科 医長
- 2006年 大分大学医学部
腫瘍病態制御講座
(第2外科)
助教授(准教授)
- 2011年 大分大学医学部
総合外科学第二講座
診療教授
- 2012年 福岡大学医学部
外科学講座
呼吸器・乳腺内分泌・
小児外科 准教授
- 2013年 福岡大学医学部
外科学講座
呼吸器・乳腺内分泌・
小児外科 診療教授
- 2019年 福岡大学筑紫病院
外科 准教授
呼吸器・乳腺センター
診療部長
- 2021年 現職

このたび福岡大学筑紫病院呼吸器・乳腺外科教授を拝命致しました山下です。同窓会の皆様にご挨拶申し上げます。

専門は呼吸器外科(特に胸腔鏡手術)および乳腺外科です。福岡大学とのご縁は平成25年福岡大学呼吸器・乳腺内分泌・小児外科(岩崎昭憲教授)への入職に端を発します。これまで昭和61年3月熊本大学医学部を卒業後、同外科学第二講座に入局し一般外科を研修後、昭和63年7月より国立療養所松戸病院(現国立がん研究センター東病院)で呼吸器外科の修練を積みました。平成2年4月から熊本大学医学部大学院にてヒト乳癌組織中における膜型ホスホリパーゼA2の役割および胃癌細胞株におけるインターロイキン6と膜型ホスホリパーゼA2の関係に関する研究で学位を取得しました。更に同大学院在学中に熊本大学医学部遺伝発生研究施設、山村研一教授の下でトランスジェニックマウスの作成および標的遺伝子組み換えの技術を修得し、平成6年4月より2年半ジュネーブ大学医学部免疫病理学教室のPierre Vassalli教授の下でCD44のノックアウトマウス作成およびT細胞アポトーシスの研究を行いました。平成9年4月より、国立病院機構熊本医療センターに勤務し、外科全般にわたる診療および臨床研究を行いました。平成18年8月より大分大学第二外科(川原克信教授)の下で准教授として勤務後、福岡大学に異動致しました。令和元年より筑紫病院外科(准教授)、呼吸器・乳腺センター診療部長として診療を行ってきました。この間乳がん手術数は19例(令和元年)、40例(令和二年)と着実に伸び続けています。また肺がんにおいても単孔式胸腔鏡手術から拡大手術まで行ってきました。筑紫地区は福岡市、久留米市の中に位置するベッドタウンですが、これまで都市部に流れていた患者の獲得に尽力し病院の収益増加に貢献したいと考えております。また大学病院の使命である診療、教育、研究に邁進したいと存じます。これからも引き続き皆様のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

教授退任挨拶

教授退任のご挨拶

長きにわたり福岡大学にお世話になりました

福岡大学医学部 病理学 前教授 竹下盛重 (3 回生)

1974 年 4 月に医学部開設 3 回生として入学して以来、早 47 年が経ちました。この間、約 12 年を外で過ごしましたので 35 年間で福岡大学と共にしたことになります。この 30 - 40 年の時代の変遷はすさまじく、驚きを隠せません。まずは、学生時代では中村学園から福大病院までの道は、片側 1 車線の小さな道路でバスの離合もやっと出来る状態でした。現在は片側 2 車線であり、加えて地下鉄七隈線もあり、昔、バス数台が数珠のように連なっていたのが夢のようです。この間、医療も大きく変革していきました。私は、縁あり故菊池昌弘教授の元、病理学を研鑽させていただきましたが、1980 年代の白血病やリンパ腫の化学療法は、まさに化学療法の細胞毒性と感染症との闘いであり、病気は死に直結するものでした。1977 年に世界で初めてウイルスと直結する悪性腫瘍である成人 T 細胞白血病 / リンパ腫 (ATLL) が日本で見出され、細菌、真菌、CMV 感染を合併した ATLL を含む悪性リンパ腫の剖検例を多数拝見させていただきました。しかし、現在ではより進んだ化学療法剤、移植、G-CSF 等の開発により、急性白血病、慢性骨髄性白血病、Burkitt リンパ腫は治癒する病気になっております。また、1980 年代は HBV、nonA nonB 型 (今の C 型) 肝炎患者が非常に多く、肝硬変、肝癌に移行し食道静脈瘤や肝性昏睡で亡くなられておりました。剖検例の疾患と治療等はその時代を反映しておりますが、肝癌の静脈瘤等、また癌そのものの治療が確立されていき、肝癌の剖検数も減少していきました。そして、2010 年代では、抗ウイルス薬も開発され、ウイルス関連肝癌は減少の一途をたどっております。1990 年代には急性心筋梗塞が死因の 1 つとして大きく注目されましたが、現

在のカテーテル、バイパス治療により克服される病気になってきました。また、現在は、死亡率が高かった悪性腫瘍に対しても早期発見とターゲット療法が可能になり、以前に比べ、格段に予後が良くなってきております。剖検例も治療関連病変の検討例が増えました。この様な中で私は学生教育、病理診断、研究をさせていただきました。本大学の病理学教室は特徴的で、それぞれの方が得意な専門分野を有しており、リンパ節、骨髄病変は故菊池昌弘名誉教授、大島孝一久留米大病理学教授に、軟部腫瘍、病理全般は岩崎宏名誉教授に、消化管病理は故村山寛助教授、岩下明德名誉教授、二村聡教授、肝胆膵疾患は中山吉福元助教授、濱田義浩准教授に、肺疾患は鍋島一樹教授、濱崎慎准教授に、泌尿器科病変は溝口幹朗元講師、林博之講師に、皮膚疾患は古賀佳織講師に、乳腺病変は青木光希子講師に、糸球体腎炎、血管病変は坂田則行名誉教授、故久野敏准教授、上杉憲子准教授、等々に教を請い診断できた点は、非常に有益なことでした。学生教育では、M3 年生への病理学総論、各論を、M5 年生にはベッドサイドとしての病理診断を担当しており



写真 1

ました。肉眼病理組織実習や剖検の見学と参加、臨床病理カンファレンス(CPC)への参加等を授業の中に入れ、できる限り興味を持っていただけるように心掛けました。学生には、病理学と薬理学は皆さんのバックボーンになるからしっかりお勉強するように日ごろから言っておりました。その甲斐むなしく、学生と教官の努力不足で医師国家試験の成績は5、6年に1度くらい最下位に低迷する状況であり、現在も続いております。しかしながら、私たちの今までの蓄積した経験からいうと、やはり、M1-4年生での試験の厳格化とM5、6年生では診療への積極的参加(他学では総合診療を担当している所があります)、M4-6年生での主な試験の合格点適正化と総合試験の自己作成に尽きると思います。福大の学生はハードルを上げれば確実に付いてくるのが明白になっていますので、新しい観点からの試験問題も入れて行えば、より広い知識が蓄えられると信じております。本課題は、永遠に続く問題であります、医学部のスタッフの方々の責務、最大の関心事と考えていただきたいと思います。

最後に…

私は、最後の頃、すでにパソコンの機能や詳細な遺伝子診断を十分に理解できていないこと(機能不全)を認識しておりました。ここを区切りとして、よい時期大学を退職させていただきました。若い方々が、

柔軟な発想と展開力を持ってより良い福岡大学医学部、福岡大学病院群を構築していただけるものと思います。どのような場面でも手を抜くとすぐに可視化されるのが世の常だと思います。現在のコロナ禍は教育、診療面に多大なる影響を及ぼしております。難しい局面ですが、学内の皆様のご活躍を祈念いたします。今日に至るまで長きにわたり福岡大学医学部でお仕事をさせていただきありがとうございました。関係各位の皆様に、心より感謝いたします。

写真1：1982年、福岡大学医学部に入局した年の医局旅行。涌蓋山はげの湯温泉にて。病理診断の基礎をお教えた先生方。左から：岩崎宏先生(病理学への真摯な姿勢、病理学の基本を教授いただいた)。竹下。三井徹次先生(悪性リンパ腫と皮膚病理学、直接指導者)。村山寛先生(消化管病理を徹底的に指導いただいた)。菊池昌弘先生(菊池病の発見者、組織の多面的な見方、病理学の方法論を教えた)。2回生の内藤英明先生。

写真2：2018年、敬愛なる溝口幹朗先生、久野敏先生の退任祝賀会の写真。2人に関係する臨床の先生方、福岡大学医学部病理学、福岡大学病院病理部、福岡大学筑紫病院のスタッフ全員が集まった写真です。お二人、そして皆様にお世話になりました。



写真2

平成30年2月22日 久野敏先生、溝口幹朗先生退任祝賀会

学会報告

第18回日本機能性食品医用学会総会－開催報告

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 主任教授 三浦 伸一郎 (11 回生)

2020年12月19日(土)～20日(日)、第18回日本機能性食品医用学会総会を健康維持と疾病予防における機能性食品の役割をテーマにWeb開催致しました。新型コロナウイルス感染症流行の先が見通せない中、Webでの開催となりましたが、多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

この学術総会は、日本機能性食品医用学会の要請により毎年開催されております総会です。本総会では、「エビデンス」のある機能性食品の医用普及により国民健康促進や生活習慣病予防に役立つことを目的として、特別講演、シンポジウム、セミナー、教育講演、一般演題などが実施され、例年、活発な討議がなされております。機能性食品の対象は、生活習慣病の発症や進行からリハビリテーション、また、それに関連した虚血性心疾患、脳卒中、肺疾患、末梢動脈疾患や心不全などの発症の予防です。機能性食品の医用普及には、医学、薬学、農学、理学研究者など多職種の関与が必要です。このように、本総会は、機能性食品普及に欠かせぬものであり、その社会での役割は、極めて大きいものとなっております。

第18回ではGachon University,KoreaのKwang Kon Koh先生に、特別講演“Strategies to Overcome Residual Risk In Statins Era”、また、2つの教育講演を開催し、小笹寧子先生(京都大学医学部附属病院循環器内科)「心臓リハビリテーションにおける栄養管理」と大川雅史先生(福岡大学薬学部生薬学)「含有成分(化合物群)からみた機能性食品」にお話しいただきました。さらに、シンポジウム1:「血糖と機能性食品」、シンポジウム2:「動脈硬化性心血管病と機能性食品」、シンポジウム3:「スポーツと機能性食品」、シンポジウム4:「リハビリテーションと機能性食品」、シンポジウム5:「厚労科研3班合同報告」を開催いたしました。共催セミナーでは、柳瀬敏彦先生(誠和会牟田病院)に「糖尿病診療の進歩から学ぶ健康長寿へのヒント」にてご講演をしていただきました。今回の総会にご参加いただきました皆様方には、多方面から機能性食品を踏まえた疾病の予防の役割について理解を深めていただけたのではないかと考えております。

今回の総会が無事に終了できましたのも、福岡大学医学部同窓会、心臓・血管内科学同門会の多大なご支援のおかげであり、お借りいたしまして心より御礼申し上げます。また、今後とも心血管病の撲滅に務めて参りますので、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

**第18回
日本機能性食品医用学会総会**

テーマ 健康維持と疾病予防における機能性食品の役割

会期 2020年12月19日(土) ▶ 20日(日)
(新型コロナウイルス感染症の状況により予定が変更される場合があります)

会場 福岡大学病院メディカルホール
〒814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1

会長 三浦 伸一郎 (福岡大学医学部心臓・血管内科学 教授)

■特別講演・教育講演 ■学会賞候補演題・一般演題 ■シンポジウム
■一般演題募集

第18回日本機能性食品医用学会総会の一般演題をWEBにて募集いたします。
募集期間は7月6日(月)～8月29日(土)を予定しております。
【募集URL】 <http://www.jsmuff.com/soukai2020/>

【事務局】福岡大学医学部心臓・血管内科学
〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈 7-45-1 TEL 092-401-1011 (内線 3360) FAX 092-405-2692
Email jankam@fukuoka-u.ac.jp 写真提供: 福岡市



第56回日本胆道学会学術集会を終えて

第56回日本胆道学会学術集会会長
福岡大学筑紫病院消化器内科

植木 敏 晴 (8回生)

第56回日本胆道学会学術集会は、2020年10月1日、2日にアクロス福岡で、通常開催の予定でしたが、COVID19感染症の感染拡大に伴い、オンラインと誌上開催としました。初めての開催形式でしたが、皆様のお陰で無事に、そして盛会に終了することができました。ありがとうございました。

本学会の福岡での開催は51年振りでしたが、海野倫明理事長を始め役員や会員の先生方、学会事務局、医局員の先生方、医局秘書の方々、そして御協力、御支援して頂いた福岡大学医学部同窓会、消化器内科同門会や関連病院の先生方に厚く御礼申し上げます。来福を楽しみにしておられた先生方にはご来場が叶いませんでしたが、インターナショナルセッションやコメディカルセッションを含めた主題や胆道学会指導医養成講座を中心にオンラインでの発表とし、一般演題は誌上発表とさせて頂きました。最終参加人数は、1,372人と過去最高の参加者でした。ありがとうございました。

本学術集会は、胆道学を学ぶ内科、外科、放射線科、病理の先生方の「胆道オタク」の会です。私は、福岡大学第一内科(現消化器内科)故坂口正剛講師から超音波関連手技を、同第一外科(現消化器外科)池田靖洋元教授、故真栄城兼清講師から内視鏡的逆行性胆管膵管造影関連手技を学びました。昨今の社会情勢の変化から、検査手技、手術における偶発症、特に死亡例に対して世間の厳しい目が向けられ、患者やそ

の家族へのより一層の十分な説明が求められています。本会のテーマは「胆道学に魅せられて—あたたかい医療—」としました。胆道学に関するホットなテーマを主題に取り上げ、オンラインでしたが、活発な討論がなされ、会員の先生方に有益な新知見を提供することができました。さらに、事前登録して頂いた先生方が自由な時間に興味のあるセッションを視聴できるように、主題セッションやスポンサーセミナーを含めて本会終了後約2週間オンデマンドで配信しました。新しい試みでしたが、大変好評でした。今後、多くの学会がハイブリッド形式を採用すると考えられますが、学会運営の一つの参考になるとと思います。

最後に、日々の日常診療に従事し、切磋琢磨している福岡大学筑紫病院消化器内科の医局員、外来、病棟、内視鏡室や透視室のコメディカルのスタッフに感謝致します。



報 告

福岡大学医学部医学科卒業生の初期臨床研修病院 選択に関するアンケート結果

福岡大学病院 卒後臨床研修センター

北島 研 (21 回生・副センター長)・鍋島 茂樹 (13 回生・センター長)

2004 年度から開始された新臨床研修医制度により全国的に大学病院での初期臨床研修医が減少し、他の臨床研修指定を受けている市中病院へと流出している現実があります。2021 年度の福岡大学病院と福岡大学筑紫病院の 2 病院を合わせた初期臨床研修医定員 43 名に対して、他学からの出身者を含めても採用者数は 28 名で、いわゆる定員割れの状態です。また 2021 年春に医師国家試験に合格した福岡大学医学部医学科卒業生のうち、福岡大学の病院で研修を行っているのは 11 名に留まっています。そこで本学卒業生が福岡大学の病院以外の臨床研修病院を選択する理由をアンケート調査で明らかにすることにしました。

小玉医学部長、安元医学教育推進講座教授にご協力頂き、2020 年 3 月医師国家試験に合格した福大卒の 1 年目初期臨床研修医 120 名を対象に、2020 年秋号の同窓会報に同封させて頂いた封書もしくは学年内 SNS で QR コードを送付し、インターネット経由で 28 名 (23%) から回答を頂きました。本学の病院 2 名 (28 名のうち 7%)、本学以外の大学病院 11 名 (39%)、大学病院以外の研修病院 (市中病院) 15 名 (54%) でした (質問 1)。

研修先を選んだ理由で上位は様々な診療科で経験が積める 13 名 (28 名のうち 46%)、給与が良い 10

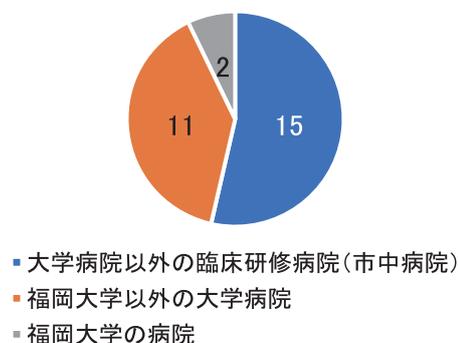
名 (36%)、時間外手当がある、研修診療科を自由に選択できるが同率で 9 名 (32%) の順でした (質問 2)。

本学の病院を選択しなかった理由上位は給与が安い 12 名 (43%)、手技ができる機会が少ない 11 名 (39%)、臨床実習での印象が悪かった 8 名 (29%) でした (質問 3)。

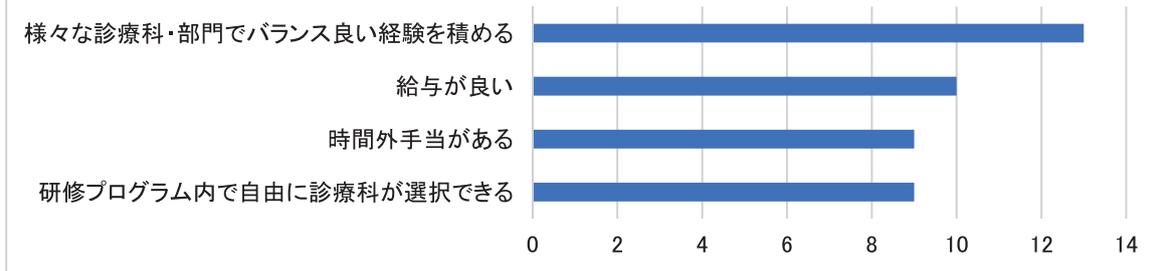
研修先選択の参考資料上位は病院見学の印象 24 名 (86%)、先輩からの情報 15 名 (54%)、研修病院公式ホームページ 14 名 (50%) でした (質問 4)。

福岡大学病院卒後臨床研修センターでも 2020 年 5 月に福岡大学医学部同窓会のご支援により公式のホームページを作成し、新たに情報を発信することができるようになりました (写真)。この場をお借りして感謝申し上げます。

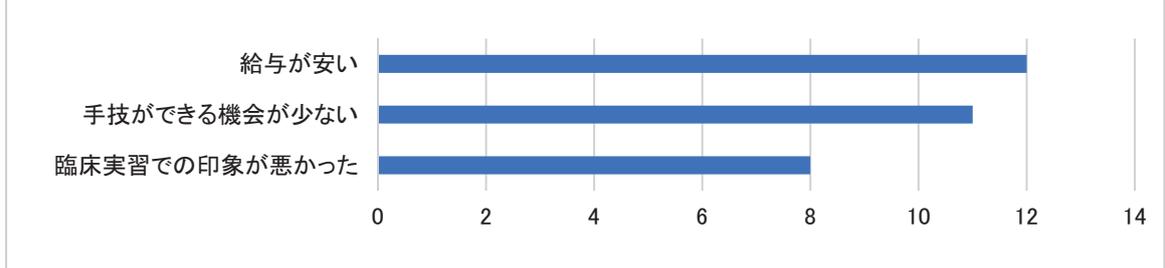
質問 1: 現在の臨床研修病院



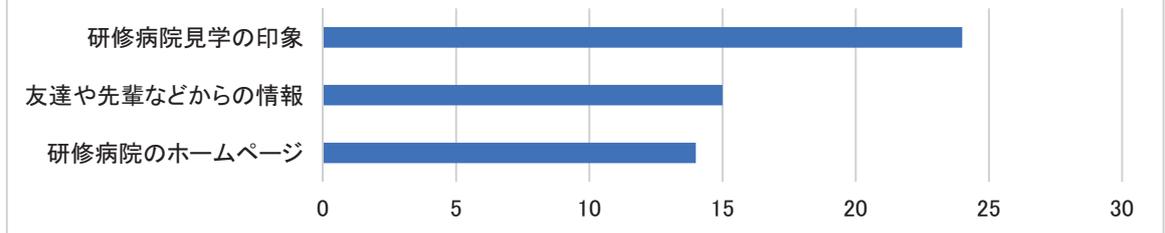
質問2: 現在の研修病院を選んだ理由(複数回答可)



質問3: 福岡大学の病院を選択しなかった理由(複数回答可)



質問4: 研修病院を選んだ際の参考資料(複数回答可)



公式
ホームページ

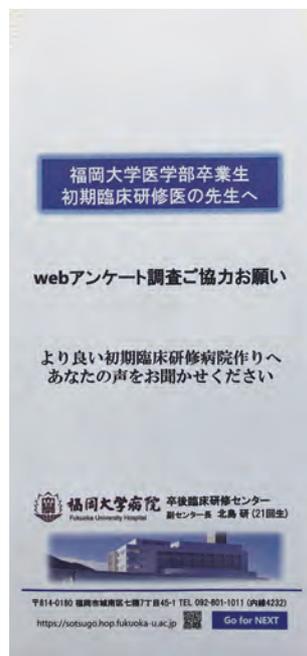


今回の初期研修1年目アンケートでは、研修先選択理由に研修内容の他に給与待遇面も重視しており、続いて手技ができる機会の多さがあることが判りました。大学病院は市中病院と比較して給与面では敵わないものの、臨床研修指導医の資格を有する上級医が各診療科に多数在籍している特徴があります。手技に関してはシュミレーションセンター開設など研修医教育体制を強化することが、初期臨床研修医が研修先に求めるプログラムに近づくための鍵になると考えられます。また初期臨床研修の2年間のうち、1年間を福岡大学の病院、残りの1年間を市中の協力型病院で研修する、大学病院と市中病院の長所を併せ持った「たすきがけプログラム」を2023年度開始の福岡大学病院初期臨床研修プログラムに取り入れるように岩崎福岡大学病院長とともに現在検討を重ねております。

また初期研修ののちには、入局や専門研修と言わ

れる後期研修が控えており、各医局とも入局者募集や後期研修プログラムに力を入れ工夫されています。しかし2018年度からは新専門医制度が導入され、福岡県は日本専門医機構より医師過剰のためシーリング(採用数上限)数が設定される専門領域が多く、入局者確保に際し「福岡大学離れ」が起きないか憂慮されているのが実情です。

福岡大学出身の医師が母校である福岡大学の病院を初期・後期を問わず研修先に選択して頂くことが、福岡大学の発展に繋がっていきます。そのためには刻々と変化を求められる研修プログラムに対応しつつ、福岡大学医学部卒業生の卒後教育やキャリアプランを作成することが、福岡大学病院卒後臨床研修センターに課せられた使命の一つと考えます。高木会長、重田副会長を始め同窓会会員皆様のお力添えを頂きながら進めて参りたいと考えておりますので、引き続きご支援のほどどうぞ宜しくお願いいたします。



2021年秋号の烏帽子会会報にアンケートが届いた研修医1年目の先生は、回答へのご協力どうぞよろしくお願い致します。

教室紹介

消化器外科学講座

福岡大学医学部 消化器外科学 医局長 塩 飽 洋 生 (26 回生)

この度は教室紹介の機会を頂き、誠に有難うございます。2016年に長谷川傑先生が当科の教授に着任され、早5年が経過いたしました。教室の理念である『臨床力、人間力、発信力』をモットーに、このコロナ禍においても、常に笑顔を決やすことなく、医局員一丸となって、日常診療や研究に邁進しております。教室の1番の特長は、腹腔鏡、手術支援ロボット(da Vinci)、軟性内視鏡などを用いて、臓器や機能の温存ができる低侵襲かつ患者満足度の高い手術を常に目指していることです。それぞれの分野にエキスパートがおり、難易度の高い症例でも、問題なく業務を遂

行することができております。ESD や ERCP といった内視鏡治療の分野では、消化器内科の先生方と毎週カンファレンスを行い、垣根を作らない体制づくりを常に心掛けております。手術以外のがん治療(抗がん剤治療や放射線治療など)につきましても大学内の様々な部署と連携をし、最善の治療法を提示できるように努めております。患者さんに、より一層の信頼感と安心感を持っていただけるよう、医局員一同、これからも日々研鑽を重ねて参ります。今後も変わらぬご指導、ご支援、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



放射線医学講座

「Dr's Dr」と称される放射線科医

福岡大学医学部 放射線医学 教授 吉 満 研 吾 (特別会員)

初代主任教授 小野庸先生(専門分野:放射線治療・昭和48年～平成4年9月)2代目主任教授 岡崎正敏先生(専門分野:IVR・平成4年10月～平成20年3月)の後を継いで、3代目主任教授として平成20年4月から勤務しています。

福大放射線科医局は、決して大きな医局ではなく、むしろ、こじんまりとしたところですが、その分、スタッフの顔が見えるため、アットホームな医局ともいえます。ですが、当教室は、人員規模としては少人数ながら、「診断・IVR」「核医学」「放射線治療」の3部門ともバランスのとれた構成が「ウリ」です。放射線医学全般にバランス良くスタッフを揃え、診療・教育・研究に頑張っています。医局内の各部門も、向こう三軒両隣状態で、お互いに質問や相談をしやすい雰囲気です。

す。各スタッフの人柄もよく、ヘンな質問にも(オオムネ)快く答えてくれる人ばかりです。最近では当医局の魅力をよりよく知っていただくためにホームページ上にPR動画も作成いたしました。

PET-CT(核医学)、放射線治療機器としては、最新のVNATリニアック装置(HALCYON)も完備しています。3TMRIも導入され、本邦では初の3.0T機によるMRエラストグラフィ(生体内の硬さを画像化するMRI)も可能になりました。

これからもあらゆる診療科と連携し、画像診断、核医学、IVR、放射線治療と、多方面から相談役として医療を支えていくことを放射線科としての使命として精進して参ります。今後ともご支援ご鞭撻の程何卒宜しくお願いいたします。



支部長挨拶

お陰さまで会報も今年の5月で第70号を発行するに至りました。
その記念として各支部長のご挨拶を掲載いたします。

まかせん会（烏帽子会福岡支部）挨拶

福岡大学医学部同窓会 福岡支部長
まかせん会会長

権藤 公和（1回生）



福岡支部長の権藤です。福岡支部は市内7区、宗像、粕屋、糸島の10のエリアから構成され、会員数は500名を超える大きな支部です。烏帽子会が発足した当時、福岡市内で有志の懇談会があり、支部に名前を付けることになりました。福岡大学医学部・病院の応援は地元の福岡市に任せなさい、とのことで「まかせん会」と命名されました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックのため、会の活動はほぼ休止状態となり、昨年は総会及び、各エリア会も中止せざるを得ませんでした。受診控えのため医療機関の経営も厳しくなった施設も多いと聞き及びます。緊急事態宣言後も新規患者数は高止まりで、はっきりした感染収束の様相は認められていないようです。また、変異ウイルスも問題となっています。経済発展を目的とした森林開発など自然環境破壊の結果、SARS（重症急性呼吸器症候群）やMERS（中東呼吸器症候群）、鳥インフルエンザなど野生動物由来の新しいウイルス感染症が問題となり、経済とパンデミックと

の折り合いを図る重要性が増してきていると考えます。今後起こると考えられる未知の感染症パンデミックに対しては、救急体制の整備、公的感染症専門の病院の設立、保健所機能の強化など、平時からの対策を考え直す必要があると考えます。新型コロナウイルス感染症への医療提供を診療報酬でもサポートするために、中医協総会で多数の特例が認められています。院内トリアージ加算がよい例で、本来は施設基準があり、届け出が必要でしたが、一時的に施設基準に満たせなくなったとしても、変更の届出をする必要はなく、従来どおりの診療報酬を算定しても良くなっています。オンライン診療に関して、初診は不可であったものが可能となりました。また緊急入院患者が新型コロナウイルス感染症であれば、患者の状態を評価する指標をレセプトに記載することなく、救急医療管理加算1が算定できるようになりました。新型コロナ感染関連の医療機関でのワクチン接種は始まり、一般市民に対しての接種説明会が開催されましたが、高齢者、一般開業医や職員への接種にはまだ時間が必要な様子です。我々医療関係者は、第4波が起らないように十分な対策を行い、地域住民の生命と健康、そして生活を守る医療の提供を目指していかなければならないと思われま

烏帽子会誌第70号によせて

福岡大学医学部同窓会 熊本支部長 魚返 英寛（5回生）



熊本支部長を拝命して26年になります。福大医学部関連のトップをOBがしめて活躍されて、OBとして誇らしく思っております。熊本支部では開業医（家勤も含めて）109名、勤務医が119名の228名が熊

本各地での地域医療に貢献しております。私くしと27回生の冬田君は熊本市医師会の理事として医師会会員の賛助に尽くしております。新型コロナの影響で、殆どの会議や講演がリモートとなり熊本支部会も満足にひらけてないのが現状です。熊本もだいぶ発症は下げ止まりですが、九州では福岡に次いで多く、皆ピリピリして対策に追われています。一方、熊本地震の復興は順調に進んで、熊本城の修復工事も進展しております。早く、新型コロナウイルス感染が収束し、評議員会で皆様とお会いしたいものです。

福岡大学烏帽子会、北九州支部だより

福岡大学医学部同窓会 北九州支部長 坂本 博士 (2回生)



1972年、第一回生が入学し、来年度で医学部創立50周年を迎えますことに心よりお祝い申し上げます。私こと一浪目に福大医学部を受験しましたがあえなく不合格。親の落胆をみて見て、なんとか翌年の1973年、合格。両親の嬉しそうな顔を今でも思い出します。

10年前の東日本大震災を初め、熊本地震などの自然災害の驚異や昨年よりのコロナウイルスの猛威は想定を越える勢いで世界中にパンデミックを引き起こしています。

昨年北九州支部総会を11月に開催し、ECOMセ

ンターの仲村佳彦先生をお招きしコロナ最前線の現状を講演していただきました。まさに臨場感ある現場の奮闘にあつという間に時間が過ぎました。救急救命治療の最前線で奮闘している福大同窓生の懸命な活動に対して心より敬服するとともに同窓生として誇りに思います。現在福岡も第4波が起こりつつあります。コロナワクチンが開始されましたが、まだまだ予断が出来ません。福大病院の皆様の健闘に感謝の念でいっぱいです。

北九州支部では昨年より2回生の穴井堅能君が北九州医師会長として、8回生の松村洋君が小倉医師会長としてコロナ真最中、自ら立候補して当選いたしました。医師会事業、コロナ対策など同窓会としてできる限り協力していきたいと思っております。

最後になりますが、福大医学部と烏帽子会同窓会のますますの発展と活躍を期待しています。

筑紫支部長挨拶

福岡大学医学部同窓会 筑紫支部長 竹野 文 洋 (5回生)



烏帽子会の皆様、お久しぶりです。筑紫支部で支部長を務めております竹野文洋(5回生、春日市にて内科クリニック開業)です。今、コロナウイルスとの戦いの真っ只中、一部の地域では第4波(?)とも思

われる感染者数の再増加がみられています。皆様も診療、仕事等に、かなりのストレスを感じていると思いますが、こうゆう時だからこそ落ち着いて、腰を据えて対処すべきだと自らに言い聞かせております。

筑紫地区は、大野城市、春日市、太宰府市、筑紫野市、那珂川市の5市から成り、人口約45万人。筑紫支部はその筑紫地区に勤務もしくは開業する正会員(福大筑紫病院の会員は除く)及び学生会員から成

り、現在正会員約140名(福岡徳洲会病院含む)で、少しずつ増えてきています。毎年7月に支部総会を行っておりましたが、昨年に続き今年も中止の可能性大と思っております。

昨年6月、筑紫医師会(会員数A・B合わせて440名)の会長に就任しました。今回の感染症(COVID-19)は、医師の働き方や医療のみならず、経済、価値観、社会生活などにも大きな影響を与えております。我々医療界にも大きな変革の時が来ていると思っております。

4月になりました。そろそろコロナワクチン(残念ながら自国のワクチンではありませんが、かなりの効果がありそうです。)接種の時です。当医師会では、市民の安心・安全を考慮して、多少手間はかかりますが、集団での接種を行います。医療従事者1万4千人から始まり、高齢者11万人、残り30数万人です。いつ打ち終えるのかわかりませんが、無事に終了の日を迎えたいものです。

朝倉支部長挨拶

福岡大学医学部同窓会 朝倉支部長 杉山 正 治 (3 回生)



この度、古林先生の後任として朝倉支部長に就任することとなりました。

現在新型コロナウイルスの影響により日本はもとより世界中が先の見えない大変な状況にあり、我々世代が過去に

経験した事のない状態です。こうした厳しく苦しい時こそ COVID-19 を撲滅すべく皆で同じ目標に向かい、力を合わせて取り組む事が大切であると共に、各々が考え行動すればどんな難局も乗り越えられると確信しています。

しかし感染拡大が市民生活や地域経済に大きな影響を与え、今後も人々の行動や価値観などあらゆる

面で、その影響が続く事が予想されます。

我が国ではウィズコロナ、デジタル社会の実現と言いますが私自身リモート会議での単位修得等時代の波に乗り遅れないように必死です。

発熱外来 COVID-19 の入院患者さんに日々奮闘され、事態収束と戦う医療関係者の疲労蓄積は尋常ではありません。しかし患者さんは減るどころか増える一方でしたが、現在緊急事態宣言やワクチン接種により減少傾向にあります。

正直、治験にかかる時間が著しく短いワクチンに不安はありますが、戦うすべが少ない現在、そのワクチンに頼るしかないのも現実です。この辛く厳しい時代に一筋の明るい光が一日でも早く差す事を心から願っています。

まだまだ力不足ではありますが、何卒これから御指導、御支援の程宜しくお願いします。

宮崎県支部長挨拶

福岡大学医学部同窓会 宮崎県支部長 野 田 寛 (4 回生)



同窓生の皆様には、コロナ禍の中で夫々に頑張っていることと思います。

大学、医学部、病院の要職すべてに同窓生が就任したこと、病院の新築、医学部創立 50 周年、福岡大

学創立 100 周年。本当にお祝いを申し上げます。

50 年前。記憶というより思い出になりますが。1972 年に入学し、本学のクラブ活動の勧誘があり、当時学ランの詰襟に M の学部章を付けていたら「M とは何学部?」と聞かれ、「医学部です」と答えたら、

「どうせクラブ活動にはついていけないからあっちへ行け」と言われ、我々は医学部内で 10 人以上集めて愛好会を作りました。本学のクラブ活動はプロの養成塾みたいに鍛えられ、勉学どころではない時代でした。

その当時、車も少なく、駐車場も広々としており、雪の降った後、坂道で車を横に滑らしながら遊んでいたのを見て、雪の積もらない宮崎県人にはとても考えられない光景を目にしました。その当時一緒に遊び学んだ仲間たちが、今や医学部のみならず、大学、病院、関連機関の全てを抑えられたことは、50 年の時間と同窓生全員の努力の賜物だと思います。同窓会会員の一人として誇りに思います。本当におめでとうございます。

広島支部の現状

福岡大学医学部同窓会 広島支部長 菅田 耕一 (5回生)



烏帽子会会報第70号、おめでとうございます。

私、現在広島支部長をさせていただいている5回生の菅田耕一です。

卒業後は福岡大学病院第一内科で診療、研究などしておりましたので、当時お世話になった先生方には謹んで御礼申し上げます。

その後平成9年に福岡から広島県呉市に帰って参りました。烏帽子会広島支部はすでに活動されており、すぐに参加しました。しばらくはほぼ毎年同窓会総会が開かれていたのですが、平成23年から総会

が途絶えてしまいました。そこで支部長を私がさせていただくことになり、平成28年から同窓会総会を再開いたしました。支部としては100名以上の同窓生がいるはずですが、総会参加者は平成28年16名、平成29年15名、平成30年11名、令和元年7名と尻すぼみになっております。広島へ帰って来られた方はほとんど広島大学に入局されるので、出身大学への関心が薄れてくるのかなと思います。

昨年はこの新型コロナ禍の中、とても開催できる状態ではなく総会は中止しました。医師が集まって飲食し、もしクラスターが発生したら大変なことになる状況ですので、いつ再開できるか非常に心配しております。もし再開できる状態になりましたら、広島県内の同窓生の皆様、楽しくお話できる会ですので、ぜひ参加いただきますよう宜しくお願いいたします。

沖縄県支部長挨拶

福岡大学医学部同窓会 沖縄県支部長 野原 薫 (3回生)

烏帽子会沖縄県支部長になって20数年になりました。6年前から有信会沖縄支部長を兼任するようになり、毎年、有信会支部総会を開いています。烏帽子会々員の出席は6～7人です。

さて私事ですが、今月ルビー婚を迎えることになり、記念に車をメルセデスCLからAMG GT4-Doorに乗り換えました。CLは2012年型で息子の有起が推薦したもので、当時は世界最高の乗り心地と評されていました。大型クルーザーの様な乗り心地とハンドリングで、全長5m10cm、4.7Lツインターボ、435馬力、トルクは700Nmで、全力加速すると窓の外景色がワープします。ここ数年、車も寄る年波には勝てず、徐々に乗り心地が悪くなり、どうしようかと考えていました。次は人生最期の車になるかも知れ

ないと思い、Sクラスに試乗したところ、家内にこの車では一気に老け込んでしまうと言われ、ショックを受けました。偶々、GT4-Doorが置いてあり試乗したところ、今のCLよりも若返りそうで、即決しました。2030年まで現役でいようと車のナンバー20-30です。先日、納車されました。



目指せ！関西支部病院

福岡大学医学部同窓会 関西支部長 渡 邊 太 郎 (11 回生)



私ごとですが、社会医療法人 純幸会 関西メディカル病院を2016年から大阪は伊丹空港に近い千里ニュータウンの千里中央で創業し運営しています。病床数は225床で高度急性期病床

ICU5床、急性期病床175床、回復期病床45床の構成です。病院のミッションは「診療所からの紹介を断らない、救急車を断らない」です。2019年度の救急車の受け入れは6750件で、100万人の豊能二次医療圏ではトップでした。2020年3月に地域医療支援病院と認定されました。コロナ禍になっても件数を落とすことなく頑張っています。大阪府には約500の

病院があります。1割ほどが大規模な公立公的病院です。これらの病院と規模で比べると小さいですが地域医療構想に用いられた2017年の大阪府下の各医療機関の診療実態では救急車受け入れが年間4000件以上の病院が36病院ある中、高度・急性期病床1病床あたりの救急車の受け入れ件数では33件/床と大阪府下1位の評価をいただきました。現在当院の医局には私以外に3人の福岡大学医学部OB(循環器内科2名、耳鼻咽喉科1名)の先生が在籍して頑張ってくれています。毎年多くの関西出身者が福岡大学医学部に入学しています。関西支部長としての夢は福岡大学医学部出身者が関西で働き先を探した時に一番に働きたいと思う病院になり、福岡大学医学部と遠いですが、何らかの連携を取りたいですね。福大出身者が関西で誇れる病院になれるようレベルを上げてゆきたいと思います。

飯塚支部長挨拶

福岡大学医学部同窓会 飯塚支部長 江 本 純 (8 回生)



一昨年より飯塚支部長を務めさせていただいている江本純と申します。

私のことを知らない方も多くと思いますので、自己紹介も兼ねながら飯塚地区の現況等を報告させていただきます。

私は平成18年に手術を行う有床診療所として泌尿器科C.U.クリニックを開設しました。内視鏡手術を中心に年間200例近くの手術を行い、時には膀胱全摘術のような大病院でしか行わないような手術まで手掛けています。飯塚地区で行われている泌尿器科手術は、当院と飯塚病院で90%以上を占め、飯塚病院も泌尿器科のスタッフは全て福岡大学医学部腎泌尿器外科の医局員であり、飯塚の泌尿器科は福岡大学が支えている状態です。

さらに筑豊地区まで広げてみても、手術を行っているのは他には同じく福岡大学医学部腎泌尿器外科の関連病院である田川市立病院がほとんどで、筑豊の泌尿器科は福岡大学でもっている状態です。

今後、同門内でのさらなる連携を深めて、より充実した医療を提供出来るようにしたいと思います。

また、飯塚医師会へ目を向けますと、会長は4回生の西園久徳先生が務められ、要職の専務理事に8回生の野見山祐次先生、理事には6回生の二宮健先生と14回生の藤木健弘先生が就かれており、福岡大学医学部同窓会の発言力が年々強まっている感じがします。

昨年からのコロナ禍で、飯塚地区でも閉院を余技なくされる所もあるなど医療関係も厳しい状況が続きますが、会員一同助け合い工夫しながら、頑張っ

筑後支部長挨拶

福岡大学医学部同窓会 筑後支部長 宿里 芳孝 (10 回生)



今年度より筑後支部支部長を務めさせていただくことになりました10回生の宿里芳孝と申します。私は昭和62年卒業後、健康管理科に入局し、平成4年には亡き父の後、大川市で内科を開業いたしました。当時、大川地区では福大医学部卒の開業医はおらず、自動的に筑後支部の大川地区役員となり、その後、会計、評議員、副支部長と、流れに乗ってここまで来た感がありましたが、さらには、分不相応ながら支部長を務めさせていただくこと

になりました。リーダーシップなどない私ですが、歴代会長の母校愛を継承し、各支部会員にとりまして、身近な同窓会筑後支部を目指していきたいと思っております。幸いにも困ったときの頼みの綱である大城昌平顧問(1回生)、長く実務をしていただいている長井健祐副支部長、関幸彦評議員、山内祥弘新評議員(ともに12回生)や各地区の役員がいてくれますので、安心しております。役員一同微力ながら同窓会のために努力していく所存ではありますが、なにぶん若輩者ですので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、新型コロナウイルス感染症等により医療界を取り巻く環境も厳しさを増しておりますが、皆様のご健勝とご多幸を祈念しております。

おそらく最も若い支部長挨拶

福岡大学医学部同窓会 佐賀支部長 木下 竜太郎 (21 回生)



2020年度より福岡大学同窓会 佐賀支部長に就任しました21回生の木下竜太郎でございます。同窓会支部総会の時に前任である山津善保先生(5回生)より支部の活性化のため若返りが必要とのことで若輩ながら仰せつかりました。

支部長の仕事としてはほとんど何もないので当面の目標として某私立大の支部総会と肩を並べるほど盛大に年に1度の総会及び懇親会を開催したいと考えております。目標の第一歩として一昨年から支部会総会にできる限りの同窓生に参加してもらおうべく、

医師会の勉強会などを通して声掛けを行っていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により昨年の総会及び懇親会は中止となり最初の仕事はいまだできていない状態です。

近い将来コロナワクチンも十分に流通し以前のような交流ができるものと信じております。その時には今まで以上に同窓生同士で仕事でもプライベートでも交流できるきっかけづくりができるよう努力いたしますので、この同窓会誌を読まれた同窓生の方はご連絡ください。

最後になりましたが、先輩各位並びに同窓会の皆様のご助言、ご協力を仰ぎ、業務に邁進してゆく決意でございます。また本総会ならびに支部会の際はどうぞよろしくお願い申し上げます。

支部長デビュー未だならず

福岡大学医学部同窓会 大分県支部長 矢田 公裕 (7回生)



2021年新年のお慶びを申し上げます。また会報70号おめでとうございます。コロナウイルスのパンデミックで昨年は大変な混乱をきたしました。大分県でも病院のクラスターが数件起こりましたし、受診控え・衛生環境の改善により季節性感染症が流行しない等で医療機関への受診数は大きく落ち込んでいます。会員医療機関の経営ダメージも大変大きい状況です。また、温泉で有名な別府や湯布院も観光客の激減で大きな痛手を受けています。夏には日田市天ヶ瀬や由布市湯平で

は大雨により大きな被害も出ています。国際車いすマラソンも別大マラソンも中止となっています。会議も減った週末には県内各地を視察に回ってりましたが(県外が難しいので県内で遊んでいたということですが)、年明けの今でも人が少なく寂しい限りです。その様な中で、福岡大学のECMOに関する報道等母校の活躍を見て大変心強く思ったものです。当方、前支部長の鬼木寛治先生から後継を仰せつかりましたが、4月の支部長会は中止となり、また例年行っています支部懇親会「かぼす会」も開催することが出来ませんでした。支部長としての活動が未だ出来ておりません。大変情けない限りであります。今年こそはしっかりと活動してまいりたいと思っております。

鹿児島支部長挨拶

福岡大学医学部同窓会 鹿児島支部長 橋口 恭博 (11回生)



同窓会の皆様、お元気でご活躍のことと思います。この度は会報第70号発行とのこと、お慶び申し上げます。当支部は現在会員数約200名、毎年5名前後の主に県出身者が鹿児島大学病院などの研修医療機関に戻って来られ、薩摩・大隅に2分された県本土や、点在する多くの離島など津々浦々で活躍されております。

発足26年目を迎えた当支部は、例会を別名“ぼっけもん(鹿児島弁で大胆な人)会”と称し毎年2月前

後に鹿児島市内で開催し、特別講演として本学より講師招聘の上。その後の懇親会にて旧交を温めております。

支部長は初代山下互先生(第2回卒)が発足当初より長年率いて来られましたが、恐れ多くも昨年私が第2代支部長を拝命しました。県内18の郡市医師会毎の世話人依頼など、新執行部を構築しようとした矢先のこのコロナ禍突入により未だ構築できておらず、支部会員の皆様には大変ご迷惑をお掛けしております。

今後支部会員を相互に繋ぎ、付加価値を感じて頂ける会にして行きたいと思っております。会員の皆様宜しくお願い申し上げます。

学生会員支援報告

2020年度 白衣授与式

福岡大学医学部 医学教育推進講座 教授 安元 佐和 (7回生)

同窓会の皆様には、いつも学生への多くのご支援をいただき誠に有り難うございます。

M1の新入生は、例年夏休み明けの9月に看護実習とクリニカルクラークシップを体験する病棟実習開始時に、同窓会からのケーシー白衣贈呈式を行っておりました。しかし2020年度の新入生は新型コロナウイルス感染症拡大で、オンライン講義が主体となり、病棟実習も中止となりました。そのため2021年1月6日の医学概論Ⅱの最終講義で、ケーシー白衣と同窓会Tシャツの贈呈式と記念撮影を行いました。その後、ケーシー白衣を着て一人ずつ自分の夢を語る1分間プレゼンテーションを行いました。入学して10か月経っていましたが、多くの学生がプレゼンテーションの冒頭に「皆さん、初めまして!」と挨拶をしていたのが印象的でした。この事はオンライン講義が主体で

学生同士の交流がいかに少なかったことを実感することになりました。多くの仲間をつくり励まし合い勉強できる通常の大学生活が早く戻ることを心から祈るばかりです。

同窓会の皆様へ

このたびは、白衣を1年生に贈呈していただきありがとうございます。今年は、新型コロナウイルスの影響で、白衣を着て実習を行うことができませんでしたが、医学概論Ⅱの最後の授業にて、白衣を身に付けて将来のvisionについて皆の前で発表する機会を得ることができました。白衣を身に付けることができたことで、医学生にふさわしいことをより実感することができたと同時に、これからさらに医学生としての自覚をもち、日々精進していきたいと思いました。

世界中のことが大変な状況下に置かれている中で、毎日医学の勉強ができることに感謝の気持ちを持ちながら、先輩方のように医師として社会に貢献できるように、これから頑張っていきます。

2020年度医学科1年代表 原田 恭輔



M1 白衣授与式

M5 白衣授与式



卒業式

◆ 今年の卒業式は学部毎に執り行われ、保護者の出席は見送られての式典となった ◆



医学科卒業式

◇ 本学において学部代表者への授与が執り行われ、今年の総代は医学科でした ◇



医局長・医長名簿

(○内の数字は福大医学部卒業回)

令和3年4月現在

	医 局 長	病棟医長	外来医長
[福岡大学病院]			
腫瘍・血液・感染症内科	佐々木 秀 法	中 島 勇 太 ③①	茂 木 愛 ②⑤
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	高 士 祐 一	高 橋 弘 幸	牟 田 芳 実 ③④
循 環 器 内 科	志 賀 悠 平 ②⑥	加 藤 悠 太 ③③	末 松 保 憲
消 化 器 内 科	石 橋 英 樹 ②③	久 能 宣 昭 ③②	石 田 祐 介
呼 吸 器 内 科	平 野 涼 介	井 上 博 之	井 形 文 保 ③④
腎 臓 ・ 膠 原 病 内 科	安 野 哲 彦 ②④	高 橋 宏 治 ③②	永 室 尚 子
血液浄化療法センター		安 野 哲 彦 ②④	
脳 神 經 内 科	藤 岡 伸 助 ②⑤	三 嶋 崇 靖	合 馬 慎 二 ②③
精 神 神 經 科	飯 田 仁 志 ③③	畑 中 聡 仁	大 串 祐 馬
〃 (デイケア)			永 野 健 太
小 児 科	藤 田 貴 子 ②②	坂 口 崇	後 藤 綾 子
消 化 器 外 科	塩 飽 洋 生 ②⑥	島 岡 秀 樹	榎 研 二 ②④
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	宮 原 聡	阿 部 創 世 ③③	上 田 雄 一 郎
整 形 外 科	萩 尾 友 宣	田 中 潤	坂 本 哲 哉
形 成 外 科	岡 本 理 沙	西 建 剛	小 柳 俊 彰
脳 神 經 外 科	野 中 将 ①⑥	天 本 宇 昭	小 林 広 昌 ③②
心 臓 血 管 外 科	林 田 好 生 ②⑩	寺 谷 裕 充 ③①	桑 原 豪 ②⑦
皮 膚 科	柴 山 慶 継 ②⑦	清 水 裕 毅 ③⑥	佐 藤 絵 美 ③⑩
泌 尿 器 外 科	中 村 信 之 ①⑩	宮 崎 健 ③④	岡 部 雄
産 婦 人 科	倉 員 正 光	深 川 怜 史 ③②(産科)	倉 員 正 光
〃		宮 原 大 輔 ②⑩(婦人科)	吉 川 賢 一 ③⑥
眼 科	原 田 一 宏	上 野 智 弘 ③④	小 林 彩 加
耳 鼻 咽 喉 科	妻 鳥 敬 一 郎 ③②	打 田 義 則 ③④	宮 崎 健
放 射 線 科	浦 川 博 史 ①⑤	赤 井 智 春 ②⑦	坂 本 桂 子
麻 酔 科	楠 本 剛	平 井 規 雅	柴 田 志 保 ②⑥
歯 科 口 腔 外 科	瀬 戸 美 夏	喜 多 涼 介	吉 野 綾
病 理 部	濱 田 義 浩 ①④		
臨 床 検 査 部	大 久 保 久 美 子		
輸 血 部	熊 川 み どり		
救 命 救 急 セ ン タ ー	仲 村 佳 彦 ②⑦	森 本 紳 一 ③⑤	
総合周産期母子医療センター		瀬 戸 上 貴 資 ②⑥(新生児部門)	
〃		洪 井 勇 一 (3階南病棟)	
総 合 診 療 部	崎 原 永 志 ③③	加 藤 禎 史	崎 原 永 志 ③③
東 洋 医 学 診 療 部	坂 本 篤 彦		
[福岡大学筑紫病院]			
筑紫病院(総医局長)	秋 吉 祐 一 郎	(整形外科)	
循 環 器 内 科	池 周 而 ②④	山 本 智 彦 ③⑩	矢 野 雅 也 ③②
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	工 藤 忠 睦 ②③	阿 部 一 朗	小 林 邦 久
呼 吸 器 内 科	串 間 尚 子	木 下 義 晃	吉 田 祐 士 ③①
消 化 器 内 科	宮 岡 正 喜 ②③ ※	丸 尾 達 ③⑩	安 川 重 義 ②⑨
小 児 科	井 上 貴 仁 ①⑤	山 内 良 賢	道 野 裕 輔 ③④
外 科	柴 田 亮 輔 ②⑥	坂 本 良 平	宮 坂 義 浩
呼 吸 器 ・ 乳 腺 外 科	吉 田 康 浩 ②④	永 田 旭 ③②	吉 田 康 浩 ②④
整 形 外 科	秋 吉 祐 一 郎	柴 田 光 史	蓑 川 創 ③⑩
脳 神 經 外 科	井 上 律 郎 ②⑨	新 居 浩 平 ②④	坂 本 王 哉 ②⑧
泌 尿 器 科	平 浩 志 ①⑤	平 浩 志 ①⑤	宮 島 茂 郎 ②②
眼 科	海 津 嘉 弘	海 津 嘉 弘	鈴 木 脩 司 ③⑦
耳 鼻 い ん こ う 科	佐 藤 晋 ③⑩	佐 藤 晋 ③⑩	西 隆 四 郎 ③⑩
放 射 線 科	山 本 良 太 郎 ②②		
救 急 科	松 尾 邦 浩 ⑧		
麻 酔 科	若 崎 る み 枝		
病 理 部	原 岡 誠 司		

※印は循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長

教育職員人事 (講師以上)

(○内の数字は福大医学部卒業回) [令和 2.10.2 ~ 令和 3.4.1]

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
退職	整形外科学	講師(4-7)	田中祥継 ⑳	2.12.31	
	脳神経外科学	講師	福田健治	3. 1.31	
	病理学	教授	竹下盛重 ③	3. 3.31	
	形成外科学	教授	大慈弥裕之 ③	3. 3.31	
	形成外科学	教授	秋田定伯	3. 3.31	
	心臓血管外科学	教授	田代忠	3. 3.31	
	博多駅クリニック	教授	仁位隆信 ④	3. 3.31	
	細胞生物学	准教授	三角佳生	3. 3.31	
	生理学	准教授	上原明	3. 3.31	
	小児科学	准教授	石井敦士 ⑩	3. 3.31	
	筑紫循環器内科	准教授	白井和之 ⑧	3. 3.31	
	筑紫放射線科	准教授	二見喜太郎 ①	3. 3.31	
	筑紫放射線科	准教授	東原秀行 ⑥	3. 3.31	
	西新病院循環器内科	准教授	勝田洋輔	3. 3.31	
	皮膚科	講師	山口和記	3. 3.31	
	消化器内科学	講師	森原大輔 ⑫	3. 3.31	
	消化器外科学	講師(4-7)	加藤大祐 ⑭	3. 3.31	
	消化器外科学	講師(4-7)	愛洲尚哉	3. 3.31	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	講師(4-7)	今村奈緒子	3. 3.31	
	皮膚科	講師(4-7)	鶴田紀子	3. 3.31	
腎泌尿器外科学	講師(4-7)	入江慎一郎 ⑰	3. 3.31		
形成外科学	講師(4-7)	大山拓人 ⑳	3. 3.31		
脳神経外科学	講師(4-7)	松本順太郎 ㉑	3. 3.31		
総合周産期母子医療センター	講師(4-7)	伊崎智子	3. 3.31		
採用	小児科学	教授	永光信一郎 ⑬	3. 4. 1	
	整形外科学	講師	小林知弘	3. 4. 1	
	心臓血管外科学	講師	桑原豪 ⑳	3. 4. 1	
	放射線医学	講師	高山幸久	3. 4. 1	
	精神医学	講師	堀輝	3. 4. 1	
	西新病院総合・検診	講師	河野靖	3. 4. 1	
	西新病院循環器内科	講師	河野賢次 ㉑	3. 4. 1	
	整形外科学	講師(4-7)	坂本哲哉	3. 4. 1	
	麻酔科	講師(4-7)	楠本剛	3. 4. 1	
	細胞生物学	講師(4-7)	吉田和真	3. 4. 1	
昇格	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	教授	佐藤寿彦	3. 4. 1	
	臨床検査医学	教授	小川正浩 ⑭	3. 4. 1	
	筑紫呼吸器・乳腺外科	教授	山下真一	3. 4. 1	
	細胞生物学	准教授	石倉周平	3. 4. 1	
	消化器外科学	准教授	塩飽洋生 ㉒	3. 4. 1	
	薬理学	准教授	田頭秀章	3. 4. 1	
	脳神経外科学	准教授	野中将 ⑰	3. 4. 1	
	腫瘍・血液・感染症内科	准教授	戸川温	3. 4. 1	
	筑紫放射線科	准教授	東大二郎 ⑮	3. 4. 1	
	筑紫脳卒中センター	准教授	津川潤	3. 4. 1	
	西新病院循環器内科	准教授	西川宏明 ⑱	3. 4. 1	
	解剖学	講師	貴田浩志	3. 4. 1	
	消化器内科学	講師	横山圭二 ㉒	3. 4. 1	
	腎臓・膠原病内科	講師	伊藤建二 ㉕	3. 4. 1	
	救命救急センター	講師	仲村佳彦 ㉗	3. 4. 1	
	循環器内科	講師	末松保憲	3. 4. 1	
	循環器内科	講師	有村忠聴 ㉘	3. 4. 1	
	医療安全管理部	講師	小吉里枝 ㉘	3. 4. 1	
	筑紫呼吸器内科	講師	木下義晃	3. 4. 1	
	筑紫消化器内科	講師	大津健聖 ㉘	3. 4. 1	
	筑紫放射線科	講師	宮坂義浩	3. 4. 1	
	筑紫脳神経外科	講師	坂本王哉 ㉘	3. 4. 1	
	西新病院循環器内科	講師	森井誠士 ㉖	3. 4. 1	
	寄附研究連携腎不全総合医療学講座	講師(4-7)	渡邊真穂	3. 4. 1	
	心臓・血管内科学	講師(4-7)	加藤悠太 ㉓	3. 4. 1	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	講師(4-7)	野原有起 ㉔	3. 4. 1	
	脳神経内科学	講師(4-7)	三嶋崇靖 ㉑	3. 4. 1	
	整形外科学	講師(4-7)	田中潤	3. 4. 1	
	筑紫循環器内科	講師(4-7)	山本智彦 ㉓	3. 4. 1	
	筑紫麻酔科	講師(4-7)	若崎るみ枝	3. 4. 1	
西新病院循環器内科	講師(4-7)	井上寛子	3. 4. 1		

事務局より

- ◆会報を広く情報伝達の場に・・・医学部、病院、同窓会、会員、それぞれの人が、それぞれの相手に蟠りなく伝えて欲しいと願っています。教室、部門紹介など、何時でも何度でも何回でも投稿下さい。広く、躍動する情報テーブルになればと願っています。
- ◆4月から研修をスタートされた先生、勤務先が変わられた先生は同窓会へお知らせ下さい。会報にあります住所・勤務先連絡票にて事務局までお願いいたします。

編集後記

COVID-19のような新興感染症の流行下では、全ての日常が変わらざる得ない状況となりました。さらにその対応で昨年度は、同窓会の対外的な活動を停止せざる得なくなりました。しかしながら、その環境に適応し新たな施策の中、改善・改革案のある前向きな同窓会事業は再開して行かねばなりません。そのような環境の中でも、本年度は4月24日に令和2年度評議委員会、支部長会合同会議をハイブリッド型で開催し、定例の事業報告に加え活発な議論の後、終えることができました。奇しくも、今月号は支部長の先生方のご挨拶を寄稿頂きまして感謝申し上げます。今後は是非同窓会事務局と支部との連携を強固に、身近な情報発信を行って行きたいと思えます。活動停止した昨年度ではありましたが、過去の烏帽子会報が全てPDF化され閲覧可能となったり、CBT対策・国試直前補講に会費からの浄財で対応させて頂きました。今回、評議委員会開催にご協力を頂きました関係者の皆様と共に、会費を捻出頂きました会員の皆様に、この場をおかりしまして厚くお礼申し上げます。

烏帽子会 副会長、広報・学術担当理事
小玉 正太(13回生)

烏帽子会会報第70号

発行日 令和3年5月25日
発行人 高木 忠博
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話:092-865-6353(直通)
092-801-1011(代表) 内線[3032]
FAX:092-865-9484
E-mail:eboshi@eboshikai.jp / maileboshi@gmail.com

印刷所 ロータリー印刷株式会社
福岡市中央区港2-8-9
電話:092-711-7741
FAX:092-711-7901